

ペルーには子ども人口の30%、約200万人以上の働く子どもがいます。ナソップ（MNATSOP：ペルーの働く子ども・若者の全国運動）は、1996年3月に結成された働く子どもたちの全国ネット。全国で約1万3千人が参加しています。自ら考え行動する能力を持ち、支援される対象ではなく、大人とともに社会に参画する主体であるという考え方が運営にも生かされ、全国代表16名と大人の協力者6名は子どもたちの選挙で選ばれます。中南米・アフリカ・アジアの運動とも連携して、働く子どもの権利のための活動を展開中。児童労働廃絶への動きに対しては、飢える子、路上に戻る子、法の保護外に置かれる子どもたちの急増を懸念して反対を表明。永山則夫の印税約1千万円は、教育プロジェクトや活動資金、「ナソップの家」の取得などに、そしてチャリティコンサートの収益は奨学基金として活用しています。

コンサート

GRACIAS A LA VIDA

～ありがとういのち

木下尊博 (きのした・たかあつ/ギター、チャランゴ、うた)



12歳の頃、フォルクローレと出会い、独学で民俗楽器を習得する。チャランゴの巨匠エルネスト・カプールの招きで、高校卒業後ボリビアへ渡る。以後10年間にわたり、ボリビア音楽界で活躍。86年よりグループ「ルス・デル・アンデ」のリーダーを務める。91年には映画「橋のない川」の音楽をE.カプールと担当。日本では99年のソロ・アルバム「シロツメクサの指輪」以来、4枚のCDを発表。02年には、NHK BS-hi「美しき日本～百の風景」のテーマ音楽を担当する。詩文集「天までとどけ」（北水02"）、「ボリビアを知るための68章/音楽章」（明石書店06"）、「中南米の音楽/ボリビア章」（東京堂出版10"）を執筆。06年E.カプールを招き、日本全国ツアーを行う。06年、07年、11年にはボリビアで「ルス・デル・アンデ」コンサートを開催、好評を得ず。

菱本幸二 (ひしもと・こうじ/ケーナ、シーク、パーカッション)



13歳でケーナ、シークに出逢い、独学で吹き始める。大学在学中より演奏活動を開始。87年、中南米7カ国公演に参加。90年、再度ボリビアへ渡る。グループ「ウラ」で「ムシカ・デ・マエストロス」に参加。ヨーロッパ、南米各国で演奏し、高い評価を得る。数多くの一流アーティストと共演、30枚のレコーディングに参加。97年より、「タイピカラ」「ムシカ・デ・マエストロス」と共に日本全国各地での学校公演を毎年精力的に行っている。02年には、ソロ・アルバム「ケーナとシーク 笛のデッサンI」を発表。04年「春の小川（音楽散歩）」、05年「Buscando Nuestras Huellas」07年「スリマナ」（アカパナ）、10年「笛のデッサンII」など、日本とボリビアを往き来しながら、数多くの録音、演奏で活躍。また作編曲家としても、高い評価を得ている。

森川浩恵 (もりかわ・ひろえ/箏、うた)



3歳より母から箏を学ぶ。「くすのき芸文の里箏曲コンクール」全国一位、「全国小中学校箏曲コンクール」最優秀賞などを受賞。沢井箏曲院・沢井一恵に師事。00年「日蘭青少年コンサート」参加、オランダ各都市で公演。日本全国各地でもコンサートを行い、02年アルバム「箏-koto-」を発表。純邦楽として異例の一万枚を越すセールスを記録する。「News23」「題名のない音楽会」「たけしの誰でもピカソ」等に出演。Disneyチャンネル「D-JAM」での演奏、ロシア「ノーザン・フラワーズ国際音楽祭アンサンブル」との共演、また中学校の教材「よくわかる音楽のワークブック」にも掲載され、幅広く活躍の場を広げている。日本伝統音楽の精神性と古典的な技術を基本に、箏の持つ可能性を模索し「森川浩恵の音・スタイル」を確立してきた。

お問い合わせ・チケット申し込み

fax 03-3353-7773

mail nagayama@chehemmi.sakura.ne.jp

ボランティアスタッフ募集中

演劇

David y Pablo

—Un cuento sobre los niños de las barriadas
～ダビとパブロ～スラム街の子どもたちのお話

演劇グループ Cerro Huachipa (セロ・ウアチパ)



在日ラテンアメリカ人（多くは日系ペルー人）と日本人の演劇グループ。作家や演出家というものは存在せず、アイデアを出しあい、互いに意見交換をしながら日本での生活のこと、自分たちの抱えている問題、現在の社会状況に関して思うことなどの演劇を数多くつくる。日本語とスペイン語、どちらの言語を母語としていても楽しめるように会話が成立させる演劇は独特のスタイル。上演場所は教会や広場、学校、劇場などさまざまである。代表作に「La vida de Akira」（日系ペルー人の半生を描いた作品）、「Teodoro Huaman」（アンデスから日本に偽造ビザで出稼ぎに来た男の話）などがある。

講演

誰と、どう繋がるのか

—「3・11」以後の世界に生きて

太田昌国 (おおた・まさくに)

編集者/民族問題・人権問題研究家。長年にわたって編集者として人文書の企画・編集に携わる傍ら、民族問題・南北問題などについての発言を続けている。最近では、帝国批判の立場から「日本問題」「米国問題」に関わる発言が多い。著書に『「拉致」異論』（河出文庫）『暴力批判論』（太田出版）『チェ・ゲバラプレイバック』（現在企画室）などがある。死刑廃止運動にも関わっている。

映画

ペルーの働く子どもたち物語 Vol.3

制作

NGOクシ・プンク協会 (代表・義井豊)

(NGO/Asociación Cussi Punku)

<http://cussipunku.uijin.com/index.html>

